

イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」、それを使った省力育苗と種苗流通

従来の栄養繁殖のイチゴ品種と異なり、種子から育てることができる新品種「よつぼし」で、育苗の省力化と種苗産業化を実現

研究開発の背景

- ・従来のイチゴは栄養繁殖性で、ランナーと呼ばれる子苗を切り取って株分け増殖されるが、年間40倍程度の増殖率の低さと、親株から子株に伝染する病害虫やウイルスが問題になっている。
- ・イチゴの種苗は主に都道府県単位の種苗供給体制で供給されており、それらの大部分が厳しい運営状況にある。

研究成果の内容

ニュータイプのイチゴ品種

種子繁殖型品種「よつぼし」



新品種

- ・種から育てるから**病害虫が少なく、高い増殖率**
- ・5月播種、9月定植により、11月から収穫できる**促成栽培用品種**
- ・長日条件で花芽がしやすい**四季成り性**も持つ
- ・鮮紅色で形の良い**きれいな果実**
- ・高糖度で風味がある**濃厚な食味**

導入メリット

2次育苗が不要な直接定植体系を確立

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二次育苗					播種	購入苗鉢上	2次育苗	定植				収穫
本圃直接定植					播種		定植	花成				収穫

期待される効果

- ・増殖効率が飛躍的にアップ。病害虫やウイルスに感染していない苗が容易に得られる。
- ・イチゴの種苗生産が経営として成り立ち、新しい種苗産業分野が誕生。
- ・生産者は苗の入手が楽になり、育苗労力が大幅削減されるうえ、規模拡大や新規参入も容易に。

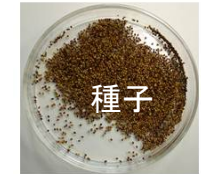
これまで4年4段階かかっていた**種苗供給が1年で可能に**

	1年目	2年目	3年目	4年目
栄養繁殖型品種 現在の種苗供給	県研究所の原種を 全農県本部へ配付	全農県本部で増殖し JAへ配付	JAで増殖し 農家へ配付	農家の自家増殖で 定植苗を育成
種子繁殖型品種 新しい種苗供給	種苗会社で種苗を 生産し農家へ			

「よつぼし」は母系親株1株から5千粒の種子生産が可能



従来品種



種子

病害虫フリーの苗が容易に得られる

	親株保管	育苗期間	労働時間
従来品種の育苗	要	130日	321時間
「よつぼし」 セル苗購入2次育苗	不要	60日	65時間
「よつぼし」 セル苗購入直接定植	不要	不要	10時間以下 (本圃増加分)

育苗労力大幅カット

導入をオススメする対象
イチゴの大規模生産者・観光農園